

虚子記念文学館投句特選句・令和六年六月

稲畑廣太郎 選

冷房に入りまづ拝す年尾像

新潟 安原 葉

漆黒の夜を脱ぎたる城若葉

鳥取 前田 千

虚子に問ひ子規にも問うて明易し

神奈川 進藤剛至

花合歡の悲しきまでの盛りかな

兵庫 玉手のり子

夏空に十字架高く高くあり

愛知 中野ひろみ

薬草の匂ひ重たし走り梅雨

兵庫 高野さち

無駄足は百に一つもない百足虫

三重 池本準一

六月の生まれ変はりし水族館

兵庫 山之口倫子

花石榴日のまぶしさに手をかざす

兵庫 山田翔太

涼風に和し風韻の松林

兵庫 田村恵津子

入選句・令和六年六月

紫陽花の萎え巢の糸は緩びをり	奈良	山口廣世	一枚の空のかげ嵌め代田村	岡山	石井宏幸
羽ゆくりゆくりと誘ふ川蜻蛉	石川	牧野妙子	そば湯がくハンカチの花風の中	滋賀	太田怒忘
異国人縫うて薄暑の京の路地	奈良	堀田ますみ	青岬絵を描く人のうしろゆく	三重	水越晴子
試着室出て見違へる更衣	大阪	立入宮子	一夜さの火蛾の貼り付く玻璃戸かな	大阪	河辺さち子
裳階もつ千年の塔新樹晴	奈良	堀田建夫	鞍馬寺都の鬼門竹伐会	京都	西村やすし
椎咲いて栗咲いて山浄めの香	大阪	若林友子	南天の花散る細き雨の午後	大阪	鈴木輝子
語り部の髭蓄へてゐて涼し	大阪	藤本公子	六月に生れて晴天味方とす	兵庫	池田文子
補助輪のとれて五月の風を切る	石川	白根寿子	六月の日本最も瑞々し	大阪	須知香代子
花オリーブ古りしオルガン聞こえる	大阪	大橋明子	江ノ電をぜいたくに乗る遠足子	東京	桜鯛みわ
短夜のカンパネルラに落とす針	兵庫	池田雅かず	神主も巫女も総出に実梅挽ぐ	大阪	多田羅紀子
おはぐろの影木洩れ日を散らしけり	兵庫	上岡あきら	六甲の嶺々茫茫と梅雨近し	大阪	徳岡美祢子
古書店の黴の匂ひと珈琲と	大阪	ふじもと言果	この土地になれ十薬の香にも慣れ	大阪	北上美佐子
オリーブの花咲く島に帰心かな	兵庫	森岡喜恵子	五月闇なれど芦屋の句座楽し	石川	辰巳昌彦
山女美味し溪水で割るウィスキー	大阪	杉山千恵子	夏木立石灯籠の日の寂びて	香川	三好ようこ
岬より能登の涯まで卯浪立つ	石川	辰巳葉流	三川を眺める露台雲の上	兵庫	小川孝子
星空に託す六月の子守歌	兵庫	奥田好子	水引き締まるお流儀の杜若	大阪	奥野千草
さみどりの色を映して川蜻蛉	兵庫	河合美恵子	川床灯り水の流れに風の色	兵庫	川村ひろみ
記念樹の緑蔭深く館に入る	大阪	谷本房子	蓮や浄土より落つ雨雫	大阪	山田佳音
田を植うる家族総出と云ふ昔	兵庫	宮本露子	古社や雨意を呼びゐる苔の花	兵庫	前田容宏
もて余す水母の傘や忘れ潮	兵庫	小柴智子	万緑の六甲の風受け瀬戸日和	兵庫	柄川武子
黒猫の動きしなやか花石榴	兵庫	河野ひろみ	殉教の島に風ふく麦の秋	兵庫	大西美知子
真白とは潔き色未草	兵庫	涌羅由美	緑蔭の蔭に影置く雲居かな	香川	藤田敦雄
花石榴咲けど散れども大仰に	京都	木村直子	パフェ来たるまずさくらんぼほぼりて	三重	吉川博子
齒科医院旧字の看板水見舞	香川	葛原由起	万緑や風の揺らしている水面	三重	中島庸子
荷を解けば子等の寄り来る水見舞	兵庫	中村恵美	遠き日のひとり遊びやさくらんぼ	三重	松村咲子

鯉幟揚げは日本の空となる	大阪	室田妙子	顔よりも大きな口や燕の子	兵庫	高市敦之
おかっぱの片ほほぷくりさくらんぼ	兵庫	出雲元子	蛍や二言三言妻の問ふ	愛知	小野 薫
捻じ上ぐる葉桜の幹黒黒と	兵庫	北井真有美	月桃の揺れて摩文仁に慰霊の日	滋賀	近江堇花
六月や風の遊びし芦屋川	兵庫	細田清子	海螺の身を熱心に突くひきこもり	熊本	貴田雄介
俳磚のはつきり紺の文字涼し	大阪	林 曜子	もののふの悲話とこしへに半夏生	兵庫	伊集院秀樹
形代を舟に流して御被終ふ	兵庫	槌橋眞美	凌霄の花と朱傘が洒落競ふ	神奈川	小林 心
苔むせる奥社へのみち額の花	兵庫	足立朱麻	マウンドにシート被せて梅雨に入る	和歌山	中島紀生
油撒く許せ罪なき子子よ	愛知	海神瑠珂	青梅雨や文字盤白し時計台	兵庫	阿曾宏之
今朝零れたる合歓の花夢の色	兵庫	長安悦子	道具屋の付喪神めく五月闇	兵庫	キートスばんじょうし
天辺は風のまほろば合歓の花	兵庫	黒田千賀子	何もかも丸き世界か熱帯魚	神奈川	平野孤舟
赤ん坊ほどの半鐘行々子	大阪	押見げげげば	ドリップのモカは濃し時の記念日	兵庫	風待あんぬ
マレー獺夏至の雲間をさ迷ふて	大阪	棕本望生	砂に書く君のイニシャル浜晩夏	石川	伊東弥太郎
ネット地図に社宅の名前濃紫陽花	奈良	堀ノ内和夫	溶接の青き火花や沖縄忌	愛媛	星月彩也華
驟雨去りいづこよりまた川蜻蛉	兵庫	西村みどり	亡き祖母のお蚕さんの声懐かし	神奈川	斉藤苑子
威勢よき声と熱風うなぎ買ふ	兵庫	二瓶美奈子	ほうたるの二つもつれて消えにけり	兵庫	太平楽太郎
リズムある瀬音のありて川床料理	兵庫	入谷千恵子	生國魂に茅の輪くぐりて笹の酒	奈良	豚々舎休庵
参考書火蛾一匹を隠しをり	兵庫	伊藤秀子	鉢巻の捻り強めに三社祭	神奈川	金子三奈乃
万緑に一色加ふ雨の音	兵庫	道中義一	夏帽を旅行鞆の上に置き	兵庫	恵島祥一朗
南座の弾む話や川床の宴	兵庫	西尾登志子	墓碑銘をなぞるか如く蝸牛	埼玉	土井洋子
実梅挽ぐ余白の空を広げつつ	兵庫	岩水ひとみ			
あの艶がどうにも苦手油虫	兵庫	高橋純子			
花合歓の見上げて高し汀子邸	兵庫	辻田あづき			
涼しさや松傾ぎたる平田町	兵庫	藤井啓子			
宴果てて二人囲みて蛍山	兵庫	永沢達明			
太鼓打つ二の腕太し夏の雲	兵庫	福田光博			
遠景の霞の縮み淡路島	京都	杉森大介			